令和４年度　中学校教育研究会　自由参観

総 合 的 な 学 習 の 時 間 学 習 指 導 案

指　導　者　　北信教育事務所学校教育課指導主事　小川　浩貴　先生

共同研究者　　信州大学学術研究院教育学系　教授　伏木　久始　先生

日　　　時　　令和４年５月 13 日（金）

授 業 学 級　　３年Ｅ組（41 名）

授 業 会 場　　武道場

単　元　名　　「これからの社会を生きる私」

授　業　者　　中村　和孝

1　全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合１

2　３年間の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合２

3　総合的な学習の時間の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・総合３

4　単元名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合３

5　単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合３

6　単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合３

7　総合的な学習の時間係として、全校研究テーマに迫るための仮説・・総合３

8　単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合４

9　資　料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合６

信州大学教育学部附属長野中学校　　総合的な学習の時間

実践者　　中村　和孝　　常田　浩二

佐々木清花　　小林　輝紀

1　全体計画

生徒・保護者・学校の実態

【生徒】
課題と真摯に向き合い、追究する姿勢があり、意見交換が活発にできる。自己の考えが強く、受信する力が弱い。

【地域・保護者】
教育への関心が高く、学校の教育活動に協力的である。

【学校】
副校長をはじめ教職員は協力して教育活動に取り組んでいる。

学校教育目標　　ともに学び　一人となる

総合的な学習の時間　第１の目標

本校の「総合的な学習の時間」の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、社会の未来や自己の将来に関わる総合的な学習を行うことを通して、自分の考えを広げ深めながら課題を解決し、自己の生き方を考えていくために以下のような資質・能力を育成する。

(1) 社会の未来や自己の将来に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
(2) 実社会や実生活の中から、社会の未来や自己の将来に関わる問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 社会の未来や自己の将来に関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、社会に参画しようとする態度を養う。

保護者・地域・教職員の願い

- 協働的な学習を通して、自他を大切にする態度の育成
- 体験的な学習の重視
- 探究的な学習の重視と、プレゼンテーション能力の育成

関係諸機関との連携

【１年】公共図書館
　　　　地域企業
【２年】中小企業家同友会
　　　　災害復興対策企画委員会
【３年】地域企業
　　　　高校、大学などの教育機関

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力				
学年	単元名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
一学年	持続可能な社会の実現に向けて （35 時間）	・持続可能な社会の実現には、そこに存在する問題が人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解することができる。 ・ウェブサイトから、検索ソフトを使って、必要な情報を収集することができる。 ・追究したことが自己の生活に関わっていることに気付くことができる。	・現代社会における諸問題の中から自分が追究する課題を見いだすことができる。 ・情報収集の手段のメリットとデメリットを理解し、目的に合った情報を収集できる。 ・グラフなどの適切な方法で整理できる。 ・追究過程をポスターやスライドにまとめることができる。	・自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意志で活動に取り組もうとする。 ・収集した情報の中から、伝えたいことを明確にして、ポスターやスライドを作成しようとする。 ・持続可能な社会を実現するために生活の中でできることを考え、取り組もうとする。
一学年	はじめの一歩を踏み出す私 （15 時間）	・今の自分をつくりあげているものには、これまでの経験・体験、環境、家族、友、憧れなどの要因があることを理解することができる。 ・今の自分が様々な要因によってつくられていることから、これからの自分は自分でつくっていくことができることに気付くことができる。 ・啓発録の内容を、検索ソフトを使って調べることができる。	・これまでの自分を振り返り、課題を見いだすことができる。 ・啓発録から、自分の生き方に共感できる考え方に関する情報を収集することができる。 ・他者の考えに対して共感できる点、できない点に分類し、その根拠を示すことができる。 ・自分の大切にしたい生き方を問い直し、まとめることができる。	・今の自分をつくりあげているものを振り返り、自分の特徴やよさを理解しようとしている。 ・「私の啓発録」について、異なる考えのよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ・自己の生き方を考え、大切にしたい生き方を実践しようとしている。
二学年	14 歳の私の問い （35 時間）	・地域で働く人々の生き方を自分との関わりで考えることは、自己の生き方を深めることにつながると気付くことができる。 ・地域で働く人々の生き方とその理由を考える学習が、自己の生き方に深く関わっていくことを理解することができる。 ・収集した情報を分類し、分かりやすい方法で表すことができる。	・自分で課題を設定し、解決の見通しをもつことができる。 ・必要な情報を明確にし、目的に合った方法で情報を収集することができる。 ・目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりすることができる。 ・目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。	・課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、活動を振り返りながら、次時の活動に生かそうとしている。 ・自分の意思で、課題の解決に向かって、活動に取り組もうとしている。 ・地域で働く人々が大切にしている生き方と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。
二学年	私たちが考える災害に負けないまち （35 時間）	・災害に負けないまちの実現には、そこに存在する多様な問題に気付き、解決に向けて取り組むことが必要であることを理解することができる。 ・対象者が困ることと対策に関する調査を適切な方法で実施することができる。 ・追究してきたことが地域における自己の生き方に関わっていることに気付くことができる。	・資料や調査で収集した情報から課題を見いだすことができる。 ・必要な情報を明確にし、効果的な方法を選択することができる。 ・収集した情報を分類し、それらを関連付けて解決に向けて考えることができる。 ・避難や避難所生活に関する調査結果を根拠に、自分の考えを表現することができる。	・避難や避難所生活における問題について、他者の意見を受け入れながら解決の見通しを立てようとする。 ・課題の解決に向けて、他者の調査内容を生かしながら、協働して取り組もうとする。 ・地域住民としての自覚を高め、誰もが安心して避難や避難所生活ができる方法を考えようとする。
三学年	これからの社会を生きる私 （50 時間）	・自己の生き方に対する考えを深めていくには、他者や社会との関わりが必要であることを理解することができる。 ・取り組んだ実践と自己の生き方との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付くことができる。 ・実践に関する調査を、適切な方法で実施することができる。	・これまでの学習や自分自身の特徴、実践に関わる調査活動などで収集した情報を基に、実践計画を立てることができる。 ・必要な情報を明確にし、多様な情報収集の方法の中から効果的な方法を選択し、適切に情報を収集することができる。 ・収集した情報を整理しながら、課題の解決に向けて考えることができる。 ・実践から得たことを自己の生き方と関わらせて考え、スライドを用いて効果的に表現することができる。	・自分で設定した課題の解決に向けて見通しをもって取り組もうとする。 ・課題の解決に向けて、他者の意見や考えを尊重しながら、協働して取り組もうとする。 ・自己の将来に向けて、自分が目指す生き方を明確にしようとする。

【学習活動】
- 「自己の生き方を考える」ことをテーマとした探究的な学習に取り組む。
- 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の流れで学習を行う。
- 多様な表現方法を身に付けさせ、学習の成果を発表する場を設定する。

【指導方法】
- 生徒の課題意識を連続、発展させる支援と個に応じた指導の工夫を行い、探究的に活動ができるようにする。
- 各教科等の関連を意識して、効果的な指導を行う。

【指導体制】
- 生徒の活動の様子や活動予定などは、全職員が共通理解できるようにする。
- 単元に応じて学年体制をとり、複数の職員で指導を行う。
- 必要に応じて、外部の人材を活用する。

【学習評価】
- 視点を踏まえた単元ごとの評価規準を設定する。
- ワークシートやレポート、振り返りの記述などの評価方法を用いる。
- 学年末には、指導計画の評価・改善を行い、次年度に生かす。

教　科　・　領　域　と　の　連　携					
国語	社会	数学	理科	音楽	美術
自分の思いや考えを見直し、深め、目的や場に応じて効果的な展開を工夫し、適切に話し、文章として表現する。自分の考えを基に、構成を考え、正確に話し、文章として表現する。	必要な資料を様々な方法で集め、問題解決に必要な資料を取捨選択する。課題設定の仕方、問題解決の方法を多面的・多角的に考える。	課題解決のために、見通しをもち、筋道を立てて考える。数量や図形などに関する数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身に付ける。	観察などを通して、事象を実証的・論理的に考え、分析的・総合的に考察する。自然の事物現象を科学的に調べる方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。	豊かで美しい響きや楽器の特長を生かして曲にふさわしい歌唱や演奏をする。歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。	自分の主題をもち、画面構成などを考え、生き生きと表現し、構想する。表現の意図に応じて材料や用具の特性、その生かし方を考えて表現する。
保健体育	技術・家庭科	英語	特別の教科　道徳	特別活動	
協働の経験を通して、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。安全について考え、判断する。	地域の生活環境をよくするために、自分たちができる生活の工夫について考え、行動する。地域の生活に関心をもち、高齢者や幼児など異なる世代の人々との関わり方を学ぶ。	主体的にコミュニケーションを図る。自分の考えていることを簡単な英語で表現し、相手の言いたいことを理解する。	教材を通して自己をみつめたり、他者と対話したり協働したりすることを通して物事を多面的・多角的に考えるとともに、自分の生き方についての考えを深める。	望ましい人間関係と自他を尊重する集団の育成を図る。生徒一人一人の自主性と社会性を育成する。	

２　３年間の構想（太枠部分が本単元）

自己を振り返る　→　他者から学ぶ　→　社会と関わる　→　社会で生きる　→　未来を見つめる

	１学年	２学年	３学年
4	○総合的な学習の時間ガイダンス ※３年間の学習を通して、自己の生き方を考えていくことを確認する。 「持続可能な社会の実現に向けて」 ○課題の設定 ・現代的な諸問題から関心のある問題を選択する。 ○情報の収集／整理・分析 ・どのような方法で情報が収集できそうか考える。 ※中学校では一人でも探究のサイクルを回すことができるようになることを目標にする。	○総合的な学習の時間ガイダンス ※地域社会と関わりながら、自己の生き方を考えていくことを確認する。 「私の『14 歳の問い』」 ○問題発見 ・「私の啓発録」を振り返る。 ・講演会①　中小企業家同友会常務理事　小林敬二さん ・講演会②　元プロサッカー選手　大橋良隆さん ○課題の設定 ・講演会を通して触れた生き方を基に、自分が追究する	○総合的な学習の時間ガイダンス ※これまでの学習を基に、これからの社会における自己の生き方を考えていくことを確認する。 「これからの社会を生きる私」 ○問題発見 ・理想とする自己の生き方に向けて取り組んでいる方の講演を聞く。 ・これまでの学習や自分自身の特徴を整理する。 ○課題の設定 ・自分の学びや特徴をまとめたものを基に、追究テ
5	<探究のサイクル> 「課題の設定」　→　「情報の収集」 ↑　　　　　　　　↓ 「まとめ・表現」←　「整理・分析」 ☆友の追究の仕方（調査の仕方、整理の仕方、まとめ方等）で参考になったものを取り上げ、そのメリット・デメリット、効果等を全体で共有していく中で、追究の仕方を学ぶ。 ○まとめ・表現（学級、学年発表会） ・友のアドバイス等を参考にしながら、自身の発表内容を振り返り、改善する。	生き方を決め出す。→「私の『14 歳の問い』」 ・自分が大切にしたい生き方を捉え直し、新たな課題（問い）をもったり、自分がすべきことを考えたりする（見通し） ○情報の収集 ・幼稚園や福祉施設などで仕事を体験したり、働く人にインタビューしたりする。（社会見学） ○整理・分析	ーマを決め出す。 ・実践の種類ごとにグルーピングされたコースに所属する。 （コース例） 【起業活動コース】…他社と新商品の開発 【交流活動コース】…保育園、福祉施設との交流 【貢献活動コース】…地域貢献、国際貢献への取組 【表現活動コース】…作曲、ものづくり活動 ○情報の収集
6	○問題発見 ・持続可能な社会の実現に関わる問題に対して具体的な取組をされている方の講演を聞く。 ○課題の設定 ・これまでの追究や講演会を基に課題を設定する。 ○グルーピング ・課題の内容に沿って分けられたグループに所属する。 （グループの例） 「貧困」、「環境」、「平和」、「福祉」、「技術」 ○活動の見通し	・社会見学に行く前と行った後の課題に対する自分の考えを比較する。 ○まとめ・表現 ・社会見学での学習を基に、学級や学年の友と社会見学から得たことを語り合う。 ○課題の設定 ・学年内の発表会を終え、課題を見直す。 ・課題を追究するための見通しを立てる。 ・どのような視点をもって情報を収集していくか見通しを立てる。	・各実践に合わせて必要な情報や収集方法を検討し、情報を収集する。（インタビューなど） ○課題の設定 ・収集した情報を様々な視点で整理しながら、今後の実践計画を検討し、９月の「附属中ワークショップ」までの見通しを立てる。 ○情報の収集 ・実践に必要な情報を、幅広く収集したり、実体験を積み重ねたりしていく。 ・外部の方との連携が必要な場合には、生徒自身が
7	・グループごと、ヒューマン・ウィークの中でどのような方法で情報を収集するか決め出す。 ☆持続可能な社会を実現するための問題を自己の生活との関わりで考える。 <ヒューマン・ウィーク> ○課題に合わせた「情報の収集」を行う。 ○「整理・分析」を行い、前回のポスターによるまとめを参考にスライドを作成する。 ○学年内の発表会を行う。「まとめ・表現」	☆実践を通して地域で働く人々の生き方を自分との関わりで捉える。 <ヒューマン・ウィーク> ○社会体験学習 ○社会体験学習の学びをスライドにまとめる。 ○企業の方を招いたワークショップ ・ヒューマン・ウィークのまとめの発表や座談会	連絡を取るようにする。 ・調査していること、実践に向けて準備をしていることについて、専門的に取り組んでいる方の講演を行ったり、アドバイスをいただいたりする。 <ヒューマン・ウィーク> ○収集した情報を整理・分析し、新たな課題を立てて実践を進めていく。 ○実践の内容に関わる地域の方や専門家と連携していく。
8			
9	「はじめの一歩を踏み出す私」 ○問題発見 ・これからの自己の生き方を考えていくために、現在に至るまでに、自分が何を経験し、どのようなことを大切にしてきたかを考える。	「私たちが考える『災害に負けないまち』」 ○問題発見 ・クロスロードの実施 ・地域のハザードマップを基に、危険個所や避難所を調べたり、	○課題の設定 ・ヒューマン・ウィークを終えて見えてきた問題点や課題点を更に修正し、当日に向けて準備を進める。 附属中ワークショップ
10	○課題の設定 ・生まれてから現在までの自分史マップをつくるためにどのような情報が必要か考える。 ○情報の収集 ・家族へのインタビュー（生まれたときの様子、家族の思い等）	マイタイムラインを作成したりする。 ・講演会　災害復興対策企画委員会　柳見澤　宏　さん ・避難所運営シミュレーション ○課題の設定 ・対象者は、避難や避難所生活において、どのよ	○まとめ・表現 ・実践報告レポートの作成 ・学級内、学年内の発表を行う。 ・友の感想やアドバイスを基に発表の仕方や内容について修正点を明確にし、再検討する。 ・社会で働く方への発表。
11	・過去の資料などから情報を収集する。 ○整理・分析 ・収集した情報を時系列に整理する。 ・当時の自分が感じていたことや家族や友の思いを分類して整理する。	うな不安や不自由さをもっているのだろうか。 ○情報の収集、整理・分析 ・疑似体験、インタビュー、インターネット等で情報を収集し、分類する。 ○まとめ・表現	・単元の振り返り。 「私へのメッセージ」 ○３年間の総合的な学習の時間で得た知識や考え方、経験を振り返り、自分自身にどのような学び
12	○まとめ・表現 ・作成した自分史マップを振り返って考えたことやこれから大切にしていきたいことをまとめ、友と共有する。	・調べた内容を友と共有する。 ○課題の設定 ・「災害に負けないまち」に向けて、整理した情報の中から発信する内容を検討する。 ・発信に向けた構成、内容の見通しをもつ。	や成長があったかを振り返る。 ○自分は将来何を目指すのか、これからすべきことは何か、どのような大人になりたいかを卒業レポ
1	○課題の設定 ・上記の学習で見いだした、大切にしていきたい生き方を基に、追究したい課題を設定する。 ○情報の収集	○情報の収集、整理・分析 ・発信に向けた資料を作成する。 ○まとめ・表現 ・情報収集をした方に資料を見てもらう。 ○課題の設定	ートとしてまとめる。 ○後輩や保護者への発表に向けて準備を進める。 <発表の場として考えられるもの>
2	・橋本佐内「啓発録」 ○整理・分析 ・共感できる点、できない点等で情報を分類し、その根拠を示す。	・頂いたアドバイスを基に、作成した資料の修正点を検討し、完成に向けた見通しをもつ。 ○情報の収集、整理・分析 ・資料を完成させ、地域に発信する。	○自分たちで学年内の発表会を企画し、実施する。 ○後輩へ向けた発表を行う。 ○近隣の高校と連携する。
3	○まとめ・表現 ☆学習を振り返り、自分の大切にしたい考え方や生き方を問い直し、「私の啓発録」としてまとめる。	※回覧板、パンフレット、HPなど ○まとめ・表現 ・単元を通して学んだことを友と共有する。 ☆災害時の諸問題を地域における自己の生き方との関わりで考える。	○冊子にまとめる。（データ化、文集等） ○信州 ESD コンソーシアムで成果発表を行う。

3 総合的な学習の時間の研究テーマ

自ら課題を設定する力を高める学習の在り方

4 単元名・学年　「これからの社会を生きる私」・３年

5 単元の目標

これまでの学習や自分自身の特徴を基に決めた実践を自ら計画・実施していく学習を通して、自己の生き方を他者や社会との関わりで捉えていく必要があることを理解し、実践から得たことを自己の生き方と関わらせて考えるとともに、自己の将来を切り拓いていくことができるようにする。

※「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間」によると、総合的な学習の時間の目標は、「内容のまとまり」を基に、総括的に目標を示すとともに、資質・能力の三つの柱を構造的に配列し、単元の目標としているため、本校他教科の学習指導案の単元の目標とは異なる表記をしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 自己の生き方に対する考えを深めていくには、他者や社会との関わりが必要であることを理解している。 知② 取り組んだ実践と自己の生き方との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 技 実践に関する調査を、適切な方法で実施している。	思① これまでの学習や自分自身の特徴、実践に関わる調査活動などで収集した情報を基に、実践計画を立てている。 思② 必要な情報を明確にし、多様な情報収集の方法の中から効果的な方法を選択し、適切に情報を収集している。 思③ 収集した情報を整理しながら、課題の解決に向けて考えている。 思④ 実践から得たことを自己の生き方と関わらせて考え、スライドを用いて効果的に表現している。	態① 自分で設定した課題の解決に向けて、見通しをもって取り組もうとしている。 態② 課題の解決に向けて、他者の意見や考えを尊重しながら、協働して取り組もうとしている。 態③ 自己の将来に向けて、自分が目指す生き方を明確にしている。

7 総合的な学習の時間係として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点１に関わる仮説

・これまでの学習や自分自身の特徴を基に決めた実践の実現に向けて、調査活動、実践の経過の振り返り、予行演習などから得た情報を整理し、今後の実践計画を検討する展開を位置付ける。このようにすることで、「探究的な見方・考え方」を働かせ、自ら計画した実践を行うための見通しをもつことができ、課題の解決に取り組み、実践から得たことを自己の生き方と関わらせて捉えることにつながる。（単元）

・商品を共同開発する企業の方から得た竹紙や商品開発に関わる情報を基に、新商品企画書を作成する活動を位置付ける。このようにすることで、今後の実践の見通しを明確にもつことができる。（本時、起業活動コース）

※生徒は、取り組む実践ごとに、四つのコース（起業活動コース、交流活動コース、貢献活動コース、表現活動コース）に分かれ、実践の内容を計画・実施していく。本来は、学年内でコース別に分かれるが、ここでは同じ学級に所属する、それぞれのコースの生徒の追究となる。本時は、実践計画を立てる場面を想定しているが、本時の位置が前後する場合もある。

(2) 重点２に関わる仮説

・単元の内容のまとまりごとに、追究テーマと関わらせて自己の生き方について考えをまとめた上で、自分の考えが更新された理由を考える場を位置付ける。このようにすることで、他者や社会との関わりによって自己の生き方に対する考えが深まっていくことなどを自覚したり、積極的に社会に参画しようとする意識を高めたりすることができる。

8 単元展開　実践から得たことを自己の生き方と関わらせて捉えていく学習

全 50 時間扱い　本時は第８時

<table>
<tr><th rowspan="2">段階</th><th colspan="5">◆学習</th><th rowspan="2">評価の観点</th><th rowspan="2">時間</th></tr>
<tr><th colspan="2">教師の指導・支援</th><th colspan="3">予想される生徒の反応</th></tr>
<tr><td rowspan="4">導入</td><td colspan="5">◆これまでの学習や自分自身の特徴を基にした実践に取り組むことを通して、自己の生き方に対する考えを深めていくという見通しをもつ。</td><td rowspan="3">態①（ワークシート）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">・３学年の学習の見通しをもてるようにガイダンスを行う。</td><td colspan="3">ア　３学年は自己の生き方を考えていく学習の集大成となる。活動内容は自分で考えられるようだが、私に何ができるのだろうか。実際に実践している方の話を聞いて参考にしたい。</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="2">・学んだことや関心のあることを生かして実践に取り組んでいる方の講演会を行う場を設ける。</td><td colspan="3">イ　本校卒業生の北村優斗さんは、高校で企画した「清走中」という実践を通して、「環境問題や防災などを楽しく学べるような企画を考えていくことが得意」という、新たな自分を発見し、自分の目指す生き方が明確になってきていると話していた。私もこれまでの学習や関心のあることを生かして、他者や社会のために取り組み、自分の生き方を考えていきたい。</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="2">・イのような、実践を通して、自己の生き方を考えたいと願う生徒の意見から、単元の目標「今の私ができる実践を通して、自己の生き方を見いだそう。」を設定し、これまでの学習や自分自身の特徴をワークシート（資料）に整理して、追究テーマを決め出すように促す。</td><td colspan="3">ウ　「私の『14 歳の問い』」では、食品製造会社で体験学習を行い、消費者が何を求めているかを考えながら商品を製造することの大切さを学ぶことができた。
エ　「自分自身の特徴」には、「新しいものをつくることが得意」と記入した。友からは「発想が豊か」と言ってもらえたので、その点も生かしたい。
オ　ワークシートにまとめた内容から、追究テーマを「企画力を身に付けるにはどうしたらよいのか」として、実践をしていきたいと思う。</td><td>思①③（ワークシート）</td><td>3〜4</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開</td><td rowspan="2">学習場面</td><td colspan="4">◆実践に関わる調査活動から得た情報を整理し、今後の実践の見通しをもつ。</td><td rowspan="3">態①（観察・ワークシート）</td><td rowspan="3">5</td></tr>
<tr><td>「起業活動コース」</td><td>「交流活動コース」</td><td>「貢献活動コース」</td><td>「表現活動コース」</td></tr>
<tr><td>コースを選択する場面</td><td>カ　商品を開発、販売するには、商品企画書を作成し、自分の力で計画的に進めていくことが求められる。「起業活動コース」で「企画力を身に付けるにはどうしたらよいか」について考えたい。</td><td>カ　「私の『14 歳の問い』では、「人と関わる上で大切なことは何か」を考え、相手の思いに寄り添うことが大切だと分かった。「交流活動コース」で「相手の思いを感じ取るために必要なことは何か」について考えたい。</td><td>カ　「持続可能な社会の実現に向けて」では、世界には十分に教育を受けられない子どもがいることを知った。「貢献活動コース」で「誰かのために行動する原動力はどのようにして生まれるのか」について考えたい。</td><td>カ　私は絵を描くことが好きだ。「私の『14 歳の問い』」では、仕事と趣味の両立について考え、将来は絵を描くことを仕事にしたい。「表現活動コース」で「好きなことを続ける上で大切なことは何か」について考えたい。</td></tr>
<tr><td>実践に関わる情報を収集する場面</td><td>キ　竹紙を使った新商品開発に向けて、竹紙の特徴や商品開発に必要なことを聞きたい。
ク　商品のコンセプトを明確にするには、社会情勢やニーズをつかむことが必要だと分かった。企業の方から得た情報を基に、商品企画書を作成しよう。</td><td>キ　交流を企画するにはどうしたらよいか、イベントプランナーの方の話を聞きたい。
ク　交流イベントを企画するには、交流する目的や参加者にとってどのような価値があるのかを考えなくてはならないことが分かった。調査した情報を基に、交流の目的を考えたい。</td><td>キ　英語の授業で、平和に向けてできることを考えている。最近の世界情勢から国際的な視点で貢献活動がしたい。
ク　ロシアによるウクライナ侵攻を受けて様々な団体が支援活動を行っているように私も支援活動をしたい。同じ班の友の意見も聞いて、班の考えをまとめたい。</td><td>キ　個展のテーマについて考えるために、現在の社会の情勢を調べたい。
ク　新型コロナウイルスや戦争など暗いニュースが多い現代。テーマを「希望」として、来場者に明るい気持ちになってもらえるような作品を制作したい。次回は、どのような作品を制作するか考えたい。</td><td>思②③（観察・ワークシート）</td><td>6〜7</td></tr>
</table>

展開	今後の実践計画を検討する場面	ケ　コロナ禍でパソコンの利用が増えている。プラスチック製品のマウスパッドを竹紙で製作してみたい。 コ　商品コンセプトを明確にする「社会情勢を捉える広い視野」をもてるようになりたい。	ケ　小中学生の理科離れについて書かれた新聞記事を見たことがある。科学の面白さを伝えられるような交流イベントを企画したい。 コ　自分の言動が相手にどのような影響を与えるのか考えられるようになりたい。	ケ　爆撃によって学校や病院も破壊されている。生活が困難な市民の方々の力になれるように募金などを行いたい。 コ　支援活動を通して、多くの人の平和な世界を望む思いを高められるようになりたい。	ケ　私は風景画を描こうと思うが、未来への希望を表すために、雲の合間から光が差し込む様子を描くことで表現したい。 コ　絵のもつ力が他人にどのような影響を与えるのかを考えられる実践にしたい。	思①（観察・ワークシート）	8〜10（本時は第9時）
	ワークショップまでに取り組む場面	◆実践の経過の振り返り、予行演習などから得た情報を整理し、取り組むべき課題を自ら更新し、課題を解決していく。				態①②（観察・ワークシート）技（観察・ワークシート） 思②③④（観察・ワークシート）	11〜40【ヒューマン・ウィーク（24時間・資料）を含む】
		サ　商品サンプルを製作して、商品の問題点や使いにくさを見付けよう。 シ　紙だから光学式マウスのレーザーの感度はよいので、裏面が滑らないように、加工の仕方を工夫できないだろうか。 ス　国語の学習を生かして商品のキャッチコピーを考えよう。	サ　理科の学習を生かして、体験型の実験で､交流をしたい。どのような実験がよいか科学博物館に行き、調査したい。 シ　空気砲やペットボトルロケットであれば、薬品を使用しないため、安全に楽しんでもらえるのではないだろうか。 ス　回覧板を使って地域の小中学生に呼び掛けよう。	サ　募金活動の他にもどのような支援方法があるか知りたい。１年生のときに講演をしていただいたＪＩＣＡの方の話を聞きたい。 シ　寄付されたお金や物資の使い道が分かるようにすれば多くの方に協力していただけると思う。 ス　ポスターなどで物資の流れや伝えたいことをまとめよう。	サ　作品はできたが、展示の仕方によって相手に与える印象も違うようだ。展示の工夫について専門家から話を聞きたい。 シ　作品を通して伝えたいメッセージに合わせて、パネルやライトを使うとよさそうだ。 ス　サイトに載せる作品の画像や制作コンセプト、プロフィールなどを考えよう。		
	附属中ワークショップ	【ご縁市で販売】 セ　商品が売れた時やお客様の喜ぶ顔を見るとやりがいを感じた。	【交流イベントの実施】 セ　ロケットを遠くに飛ばそうと何度も取り組む姿を見て嬉しくなった。	【活動の発表】 セ　多くの方が支援活動に協力してくれ、平和への思いが広がるのを肌で感じた。	【展覧会の実施】 セ　芸術家を生業としていく大変さと、好きなことに没頭できる魅力を感じた。		
終末	◆実践から得たことを将来の自己の生き方と関わらせて表現する。					知①②（ワークシート） 思④（ワークシート）	41〜49
	・実践を通して学んだことを他者に発表する場を設ける。 （以降は起業コースの生徒の姿を記載） ※友、保護者、社会で働く方などに発表し、その都度、自分の発表の方法や内容を振り返り、修正していく。	ソ　企画する力とは、何か物事を実現できればよいだけではなく、最終的な姿を明確にもって、多くの人と連携することが必要だと感じた。また、商品が一つ売れただけでも、何とも言えない充実感を得ることができた。発表を聞いてくださった企業の方も、お客様の喜ぶ顔や幸せを仕事のやりがいとして日々働いていると言っており、社会体験学習の体験とは違い、自分も社会の一員となっていくのだという実感が湧いた。					
	◆他者や社会との関わりによって自己の生き方に対する考えが深まっていくことなどを自覚したり、積極的に社会に参画しようとする意識を高めたりする。					態③（観察・ワークシート） 知①（ワークシート）	50
	・単元の内容のまとまりごとに、追究テーマと関わらせて自己の生き方について考えをまとめた上で、自分の考えが更新された理由を考える場を設ける。	タ　企画することを目標に取り組んできた中で、人が喜んだり、笑ったりしている様子を見て、やりがいを感じている自分に気付いた。将来は、企画を率先して実行できると同時に、誰かの笑顔のために努力できる大人になりたい。 チ　共同開発をした企業の方や同じチームの友など、多くの方と連携しながら、商品開発から販売まで行ったり、他者から取組の成果を評価してもらったりしたことが、自分の生き方に対する考えの更新につながったと思う。					

９　資料

(1) 導入時に使用するワークシートについて

単元の追究テーマを決める際、自己分析ワークシートを使用する（**図１**）。思考ツールの一つである「Ｙチャート」を利用したもので、これまでの学習で学んだことや自分自身の特徴などをそれぞれの枠に記入できるようにする。このようにすることで、生徒は自分のこれまでの学習や自分自身の特徴を自覚するとともに、それらを関係付けながら追究テーマを決め出していくことができると考えた。

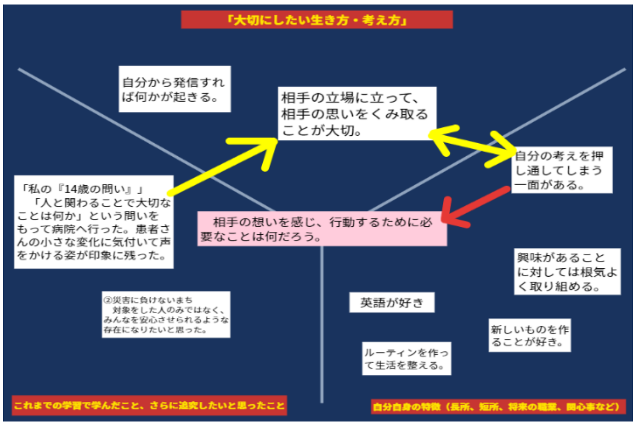

図１　追究テーマを決め出すためのワークシート

(2) 令和３年度のご縁市の様子

例年行っていたＰＴＡバザーを「ご縁市」と名称を変更して実施（**図２**）。保護者が主体となってリサイクル商品を販売するほか、本校と関わりのある企業がオリジナル商品を販売した。オリジナル商品では、ラベル（**図３**）を生徒から募集するなどして、生徒がご縁市に関わる場面があった。今年度は、ご縁市への出店を本単元の「起業コース」を選択した生徒の実践の場と位置付けさせていただき、企業と共同開発した商品を販売する。

図２　令和３年度のご縁市の様子

図３　生徒が考案した醤油のラベル

(3) ヒューマン・ウィークについて

自己の課題の解決に向けて、７月の約一週間程度（令和４年度は４日間）をすべて総合的な学習の時間に充て、「人・もの・こと」と直接関わりながら、自己の生き方に対する考えを深めていく期間。以下は、令和３年度のヒューマン・ウィークの様子。

図４「持続可能な社会の実現に向けて」において近隣の河川でごみ拾いをする様子

図５「私の『14 歳の問い』」において食品製造会社で社会体験学習を行う様子